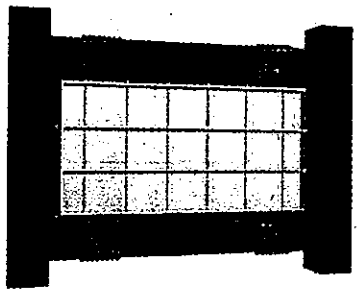


JFEスチールとJFEシビル 「制振壁」の鋼構造評定取得 地震エネルギー吸収、被害抑制

JFEスチールとJFEシビル(社長・藤井善英氏)は14日、「JFEの制振壁」の構造安全性と設計法で日本建築センターの鋼

構造評定を取得したと発表した。JFEスチールが開発した建築構造用低降伏点鋼材を地震エネルギーを吸収する鋼板パネルとして用いた制振壁で、JFEシビルが製造・販売している。これまでの採用実績は10件で、今回の評定取得を機にさらなる拡販に注力し、JFEシビルは今年度、制振壁を含むデバイス事業で20億円の売上げを目指す方針。

鋼板パネルに適切なリブ補強を施すことで地震時にパネル全体が安定的に地震エネルギーを吸収。巨大地震や長周期地震動に対する超高層建築をはじめとする建築物の被害を抑えることができるのが特徴。今回、両社は共同で制振壁について地震の繰り返し荷重に対する疲労性能を明確にし、制振壁の構造安全性と設計法が妥当であるとの評定を取得した。



制振壁のイメージ

両社はこれまででもブレース

タイプや間柱タイプの制振デバイスで評定を取得している。JFEシビルはJFEグループのデバイス製品を一元的に扱っており、今回の制振壁の評定取得で建築構造設計者が利用できる制振デバイスのメニューを充実させ、拡販につなげたいと考えている。